

2000 秋号

調布まち会だより

発行：特定非営利活動法人調布まちづくりの会 / TEL&FAX:0424-88-4022
 〒182-0024東京都調布市布田1-20-12-203 / <http://www.fukuda.is.uec.ac.jp/cmn/index.htm>
 発行責任：大久保喜正 郵便振込口座：調布まちづくりの会 00150-1-136749



多摩川秋景

©K12

西地区まちあるき



この調布探検まちあるきシリーズも今年最後となる4回目。参加者約20名で京王線飛田給駅前から、スタートしました。

まちあるきの第1ポイントは駅前広場では駅周辺整備事業の経過について石川さんから説明がありました。

第2ポイント甲州街道の歩道橋ではバリアフリーという視点から、歩道橋施設の使い勝手について新井さんから話していただき、歩道橋からみた東京スタジアムを含めた調布の景観について考えました。

第3ポイントの福祉施設、警察大学校、東京外国語大学キャンパスをウォッチング。野川下水処理場用地では小林守さんから処理水の野川放流問題について伺いました。

最終地点の野川公園では参加者が木陰の中、車座になって昼食。夏真っ盛りの日でした。(沖崎)

飛田給駅周辺地区まちづくり

飛田給駅周辺地区まちづくり協議会は東京スタジアム建設に伴う都市計画道路拡張計画にまちの将来を心配した飛田給自治会を中心に地元住民によるまちづくりを進めるため、平成6年10月発起人会、7年6月協議会が発足しました。計画対象地域は品川通りより北側飛田給1・2丁目地区40ha。道路用地にかかる人々の切実な問題と絡み、協議会は情報収集の場となりました。住民自身によるとりまとめを期待する市、個々の権利へ立ち入ることを嫌う住民との狭間で悩む間に時間は刻々と経過してリミットが近く、そんな繰り返でした。都の後押しもあり、情報の早期公開を実現し、期限内にどこまでできるかを討議しながら、全体の会合の進め方を調整し、テーマごとの会合に分けることにしたのが、平成8年頃でした。ワークショップ形式による新設道路の景観づくりもスタジアムのた

めでなく、普段自分達が使う通りとの視点から考えています。また車椅子、視覚障害者の方の意見を聞き、段差の縮小、点字ブロックの位置決め等、行政とぎりぎりの線で決定した事項もあります。駅南北の往来の観点から、駅西踏切の閉鎖案を取りやめてもらいました。

当初目指した住民によるまちづくり計画立案は平成9年までに達成できませんでした。補助をうち切られた後、自主管理のプランターの設置、クリスマスイルミネーションによる交流実験事業を行い、住民が一体になった、通りの景観についての合意もえられました。この案は新設道路づくりに活かされました。

住民一人一人がこのまちに住み続けたいとの思いがあって、ここまで進んだと思います。このまちづくり活動を通して、住民・行政の協働によるまちづくりの重要性を痛感しました。(石川)

基本計画づくりに参加しよう

人づくり・暮らしづくり・まちづくり・市役所づくり

まちづくりの会では9月初め、市基本計画づくりへの市民参加について勉強しました。調布市でも基本構想「みんながつくる笑顔輝くまち調布」を受けて基本計画の策定に着手。市民から具体的な施策について意見を聞くためのワークショップなどが計画されています。(第1回9/11、第2回10/27終了)

第1回は基本構想の説明を聞き、今後の進め方について意見交換。意見も多くでしたが、出席者は20名で低調。三鷹市では300名以上の市民が

参加したのに調布はなぜ少ないの？これが課題！

第2回はまちづくりの現状と課題についてでした。はじめての人もぜひ参加しましょう。(矢嶋)

第3回 11/20 (月)

「まちづくりの課題と解決策」

第4回 12/11 (月)

「基本計画事業」について

時間：19:00～21:00

場所：たづくり1002(10階)

おしゃべりサロン相互塾企画グループ、がんばる！！

調布まちづくりの会ではいくつかの部会に分かれて活発に活動しています。その中から今回は、相互塾グループの活躍ぶりをご紹介します。

誰でもが自由に参加し自由に意見を交換して、世代間のFace to Faceの交流の場づくりを目指し相互塾も、9月で7回を数えました。愛称をつけるなど試みたものの、参加者が今一つ伸びなかったため、7月から企画グループを発足させ、6ヶ月先までのテーマの準備と予告、PRも市報掲載だけでなく積極的にやろうということになりました。以来、企画ミーティングを月3～4回開催し、PRも市内の公共施設等38カ所にポスター・チラシを配布するなどフル回転で奮闘。それが実ったのか9月の例会は35名の方にご参加いただきました。

これからの予定は、10月 岡山まちなみ・まちづくり(鉄矢さん)、11月 地名調布の由来(小林さん)、12月 中高年パソコン事始め(矢嶋さん)、1月 海外青年協力隊について(大和田さん)、を予定しています。特に2月「調布不思議発見」は多くの方に写真応募していただくため、11月～1月に2回位、カメラを持っての街歩きを計画しています。3月、樹木医が語る樹木の話、も企画中です。お楽しみに。



第7回おしゃべりサロン 相互塾 私の戦争体験

おはなし 調布市戦時記録保存会の皆さん

9月25日の相互塾は、「私の戦争体験」のテーマで調布市戦時記録保存会から岩崎さん、加計さん、藤谷さん、藤田さんの4人をスピーカーにお迎えし風化しつつある忌まわしい戦争の体験を21世紀へ語り継ごうとお話いただきました。特に同級生が焼夷弾でやけどを負って亡くなった時の様子などは今でも忘れられないこと、つばき地蔵のところに落ちた米兵を住民がたたき殺したことなど、子供の目から見た戦争の時代が話されました。

また持参された「防空頭巾」や「灯火管制」の黒布覆いの実演に、若い人

は不思議な面持ちで見入り、年輩者は苦しかった当手を思い起こし複雑な気持ちで肯いておられたのが印象的でした。そして、この平和な調布にも爆弾が落ちたということに、改めて思いを馳せ、平和の尊さを噛み締めた次第です。

最後に調布飛行場周辺に今も残る掩体壕(エンタイゴウ:敵弾から飛行機を守るための一種のドーム、飛行機の防空壕のような頑強な構造物)の保存に取り組むことの呼びかけがあり参加者からも必要だとの声が出されていました。(都築)

まちづくりと都市計画 - その1

Q. まわりにどんどん大きな建物が建ち、だんだん日当たりが悪くなり交通量も増えて騒がしくなりそうなのですが、何とかできないのでしょうか？

A. 暮らしやすいまちにできないものか一緒に考えて見ましょう。「土地」には都市計画法等の規制がいろいろかかっています。調布市の場合、まず用途地域がかかっている、建物の使いみち(用途)や大きさ(建ぺい、容積)、かたち(斜線制限)が制限されています。しかし都市計画の『計画』部分の制度を使って既存の規制に加えた独自のルールをつくり、住民自らが自分たちの意志でまちの将来を考え、自分たちのまちをつくっていくことができます。

その一つに、ある地域の建物等の建てるルールを決め、道路の形状や道路をどう通すかまで決めていく「地区計画」があり

ます。また建物の形や使われ方を決めるのには任意の住民協定もありますが、法で縛ることができるということでは「建築協定」(建築基準法)があります。また一定の要件がないと使えませんが、密集した市街地をなおしていく「事業」もあります。

これらの制度は「使う」ことができるだけで、どう使うかはそこに住む人の意志によります。住民同士が合意しながら実践していくには困難なことが多いでしょうが「やってもらう」のではなく「自分たちでつくる」という強い意志が必要です。全市的な将来を見据えたものとしては都市計画マスタープランがあります。その策定でこの調布まちづくりの会が発足した訳ですが、計画の見直しがありますので、皆さんの思いをもう一度まとめ、反映していくことも可能でしょう。ただし、具体的なことはやはり地区計画や建築協定というような制度を使うこととなります。

(大和田)

まちづくり
勝手に Q & A

第6回おしゃべりサロン 相互塾

映画よもやま話 日本映画は生き残れるか？！

おはなし 岩井衛さん (調布まちづくりの会会員)

調布駅南口の保健所どおりを南に下って右に折れると広い通りに入る。すぐそこに『映画俳優の碑』と大映マークのついたスタジオがひっそりとたっている。ほぼ半世紀前の京王多摩川駅周辺は、東洋のハリウッドと言われたほど映画製作の町としてにぎわっていた。当時の調布市(昭和30年)は、人口4万5000人前後の静かなまちだった。今では20万人都市に成長したが、映画のまちのイメージは無く多摩川べりに日活撮影所と大映スタジオがあるけれど映画の製作は行われておらず、CMなどの映像作品が制作されているだけである。映画館は旧甲州街道沿いに2館開設され、地元の唯一の娯楽場でもあったという。一つは布田2丁目の調布映画劇場、もう1館は調布銀座通りのその名も調布銀映。いずれも映画産業の衰退とともに昭和40年代後半に閉館してしまった。中略。

市内のロケーションでは、多摩川べりと京王線と鉄橋がよくつかわれる。特に木村壮十二監督の「兄いもうと」(1936)は、昔の多摩川河川敷の原風景が活写されていて見ごたえがある。また同じ原作の「あにいもうと」(1960)では、川周辺の田園風

景が、「おとうと」(1960)では、砂利道の土堤と桜並木の近写と橋(登戸?)が遠くに見え、当時の様子が伺える。最近の「無能の人」(1991)は竹中直人が、つげ義春の劇画をもとに監督・主演した作品だが、多摩川の河原で石を売る男の日常を描いてユニークな作品だ。

この9月に「『紅の拳銃』よ永遠に」が日活芸術学院25周年記念映画として都内で上映されている。これは同学院生が中心となって作られた、若



「その生涯を映画に生く」と刻まれた映画俳優の碑

者たちの映画創りのものがたりだ。市の教育委員会の後押しもあって現在の調布の町や多摩川べりがふんだんに紹介されていて、親しみが湧いてくる。ぜひ一見を。

すでに銀座・並木座が消え日本の名作を上映する常設館はもうない。日本名画を愛好する人々は行き場を失っている。小さな映画館でもいい、調布のまちのどこかに日本映画専門の名画館(座)を建ててくれる篤志家はいないかしら。都内からでも映画ファンは駆けつけるだろう。まちづくりの一つのきっかけになればと思う。(岩井)

やあやあ

NPOフェスタ

2000

10月29日(土)に文化会館たづくり12階みんなの広場で開催された「やあやあNPOフェスタ2000」(実行委員会主催)に参加しました。テーマはみんなでワイワイまちづくりです。まちづくりの会の説明や、今まで行ったまちあるきの様子などをパネルにして展示しました。(矢嶋)

多摩市まちづくり研究会と経験交流

8/9 多摩市まちづくり研究会(以下まち研から代表の小荒井さん、会員の橋本さん、難波さんが来訪。NPO取得について懇談しました。まち研は多摩市の第4次総合計画策定に対し、地区別、テーマ別に市民ワークショップをやり、昨年12月に提言集をまとめて市に提出。その後も引き続きまちづくり提案の具体化をめざして活動をしています。まち研からは「多摩市に中央図書館をつくる会」「多摩市情報化フロンティアの会」「まち研子育て教育部会」「鶴牧まちづくり研究会」等のグループが生まれ活発に活動しているとのこと。場所を移し懇談が続きました。

NPO法人東京ランボから取材を受ける

8/28 調布市都市計画マスタープラン策定以降の調布まちづくりの会の活動について、NPO法人東京ランボの川原さんから取材を受けました。

取材は策定以降にとどまらず、1996年の活動までさかのぼり、取材という枠を超えて市民によるまちづくり活動について内容のある話し合いになりました。一般に都市マス策定後の市民によるまちづくり活動を継続していくことはなかなか大変のようです。今回の取材を受けて、これからもNPOとしての、地道なまちづくり活動を続けていくことの大切さを再認識しました。

(沖崎)

シリーズ 調布今昔 ～かつて調布にめがね橋があった～



1995(昭和30)年の御塔坂橋。上流右岸から撮影
(写真提供:「調布史談会」中村正一氏)



2000(平成12)年の御塔坂橋。上流左岸から撮影

かつて調布にはめがね橋が二つありました。

一つは昭和10年、多摩河原橋と同時に建設されつい最近まで現役だった、鶴川街道が府中用水を渡る石原橋。もう一つがこの御塔坂橋です。調布と三鷹・武蔵野方面を結ぶ都道の武蔵境通りが野川を渡る時の橋です。

この橋があるみちは、江戸時代には甲州街道の布田宿から深大寺

を経て、青梅街道の田無宿をつなぐ『深大寺道』『大師道』とよばれていました。明治に入り、武蔵境に現在の中央線の前進の甲武鉄道の駅ができると『境停車場道』と呼ばれ駅を目指す人々に歩かれていました。

昭和になってそれまでの里道的な道の姿が東京府や地元青年団らによって、バスが走れる道にかえられていきました。その当時建設

されたこのめがね橋は昭和45年(1970年)頃までありましたが、野川の改修工事や道路拡幅で壊され、現在は、味わいのない橋になってしまいました。

そして今また、この道の大幹線化計画により、橋の幅を3倍以上にする計画が動いています。めがね橋のような心和ませる、風情のある橋になるかどうか。とても心配です。
(小林冬樹)

旧大町小学校跡有効活用調査、はじまる！

第1回ワークショップ

旧大町小学校で開催 12/2 (土) 15:00 ~

調布市は、現在建設中の調和小学校の生徒が暫定的に利用している旧大町小学校跡をどう活用するかの検討を開始しました。

市は昨年のアンケート調査の結果を踏まえ、今年度調査をNPO

法人調布まちづくりの会に委託しました。市民と行政をNPOが繋ぐという、今までにないコラボレーション(協働)で検討されることとなります。

まず手始めに市民参加による第1回ワークショップを開催します。

まち会 入会案内

まじめにやっている
・オープンなのがいい
・自己主張し合える
・自分を出せる
立案実行が可能・居心地がいい等々。これらの意見は、まち会(調布まちづくりの会)に参加し活動している会員から出された「まち会」の雰囲気についての感想です。これは私がまち会に参加した時予感したものと、願っていたものがまったく一致しているのでとてもうれしく思っています。

あなたも一度「まち会」をのぞいてみませんか?会員になるか・ならないかはあなたの意思次第です。私たちは新しい仲間の参加を歓迎します。

(代表 大久保)

インフォメーション

おしゃべりサロン相互塾

11/27(月)

地名調布の由来 - 小林さん

12/18(月)

中高年のパソコン事始め - 矢嶋さん

場所: 総合福祉センター

時間: 19:00 ~ 21:00

まち会定例会

12/6 (水) 18:30 ~ 19:30

総合福祉センター 2階団体室

(定例会後に忘年会を予定しています)

1/10 (水) 19:00 ~ 21:00

総合福祉センター 2階団体室

【編集後記】 凸凹山ワークショップ、入間町里山復活作戦、環境マップづくりと忙しい夏が過ぎた。紅葉の秋とまち会をゆっくり楽しみたい。(江刺&矢嶋)

調布まちづくりの会

年会費 2000円

定例会 第1水曜日

電話番号が変わりました。

新 TEL&FAX 0424-88-4022